

中立的な立場を考える

(原文)

大場 桐子 (14 歳)

東京都

東京学芸大附属国際中等教育学校

私は平和の世の中をつくるには、中立した立場を考える教育が有効ではないかと思いました。中学生の私たちでも、普段の学校生活では様々な理由によって決断できない時があります。どちらかの選択肢を決断したら、決断した分の損失がありそこに後悔することだってあります。このことから、様々な人たちが対立する議論でどちらかを味方して自分の立場の意見を述べるのではなく中立的な立場になり、できるだけ損失や後悔をなくす考えを養える教育が必要だと思いました。

中学校で学んでいる歴史では、課題の解決のために政治家たちが対立してきっぱりと異なる意見を世間に発表されたことなどを学びました。民衆から多くの支持をもらった意見が課題の解決策として選ばれるが、実際にはその解決策によって戦争が引き起こってしまうという事例は過去にも多く起こったことがわかります。今までの対立を見てみると中立的な立場で国の課題が解決する事例が少なく、戦争が日常茶飯事になっていた過去は、平和な世の中を作ることができない状況にいたと考えられます。だからこそ、今までに使用しなかった中立的な考え方を使って物事を解決していくべきだと思いました。また、双方の主張を聞き入れるため対立している人達の中では中立的な考え方に賛同する可能性もありますので、中立的な考え方の存続は容易にできると考えることができます。

中立的な考え方といってもどうすれば双方が納得するようになるかは、片方の意見に条件を付け加えたりして偏った考え方に基づいた解決策を見つけることが大切です。そのため、授業などでは議論ができて、正確な答えがないような課題を出すような教育方法を作成して、より平和な世界を作るべきだと思いました。具体的には実際に最近議論されている問題の資料などを基に、対立しあっている人の文章を読んでそれに条件を加えて不満や後悔をなるべくなくすというような活動を主にします。このような活動をすることで、議論されている問題の資料から要点をまとめることをするので、知識となるところは自然と覚えられる効果が期待される。加わって、文章に条件などを付けるので過去や未来の想像が必要になるので、想像力が普通の学生よりも働きやすいという効果も期待される。このような授業をすることによって、知識は勝手に頭に入り想像力もつくので一石二鳥といってもいい教育方法なのではないかと思いました。中立的な考え方をしてしまうと曖昧なところが出てきてしまうのではないかと心配するところもあるが、曖昧な感じが必要な解決方法も国際的な問題解決につながると思われました。

最後に、中立的な考え方はこれからの世界を平和にするカギとなるのでその考え方を広めるために中立的な考え方を基とした教育方法が必要だと思いました。双方のメリットとデメリットを組み合わせる考え方をするので、知識となる部分は自然と頭に入ることができます。私たちが今受けている授業は知識となる部分がおおもととなっているので、質を下げずに教育ができると考えられます。今までみたいに、相手を攻撃したりしないので平和な世界を作るには中立的な考え方を基本とする教育が必要だと思いました。